

入試情報

募集人員、出願要件、選抜方法などの詳細は、必ず最新の募集要項で確認してください。（山口大学入学選抜要項は7月上旬頃、学校推薦型選抜Ⅰ募集要項は9月下旬頃、一般選抜募集要項は11月下旬頃に公表する予定です。）

募集人員

	入学定員	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
		前期日程	後期日程		
生物資源環境科学科	50	30	6	14*	若干名
生物機能科学科	50	31	9	10*	若干名

※生物資源環境科学科は“農業に関する学科”4名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

学校推薦型選抜Ⅰ（共通テストを課さない）の出願要件

学習成績、人物ともに優れ、高等学校長が責任を持って推薦できる者で、合格した場合、入学を確約できる者が出願要件となります。
※他にも調査書の学習成績の状況等、学科や対象ごとに要件があります。

帰国生徒入試の出願要件

日本国籍を有する者または日本国の永住許可を得ている者で、外国において2学年以上継続して学校教育を受けた者などが出願要件となります。

選抜方法

	一般選抜		学校推薦型選抜Ⅰ	帰国生徒入試
	前期日程	後期日程		
試験内容	大学入学 共通テスト + 個別テスト※	大学入学 共通テスト + 個別テスト (面接)	総合問題 + 面接 + 出願書類	

※詳細は最新の募集要項をご確認ください。

過去3年間の志願倍率

< 2026年3月現在 >

入試年度	入試種別	生物資源環境科学科		生物機能科学科	
		募集人員	志願倍率	募集人員	志願倍率
令和6年度 入学者選抜試験	推薦入試	10 ^{※1}	2.9	10 ^{※1}	1.8
	前期日程	33	2.2	31	1.6
	後期日程	7	15.1	9	6.3
令和7年度 入学者選抜試験	推薦入試	14 ^{※2}	1.6	10 ^{※2}	2.7
	前期日程	30	2.3	31	2.0
	後期日程	6	7.2	9	6.8
令和8年度 入学者選抜試験	推薦入試	14 ^{※2}	2.1	10 ^{※2}	2.3
	前期日程	30	1.4	31	2.6
	後期日程	6	4.5	9	4.8

※1 令和6年度入学者選抜試験について、生物資源環境科学科は“農業に関する学科”2名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

※2 令和7・8年度入学者選抜試験について、生物資源環境科学科は“農業に関する学科”4名を、生物機能科学科は“農業、工業、水産に関する学科”1名を含んだ募集人員です。

このリーフレットは農学部学生広報部員が中心となって作成しています。



お問い合わせ先

入試に関するお問い合わせは下記をお願いします。

山口大学農学部学務係

〒753-8515 山口市吉田 1677-1
TEL: 083-933-5811 FAX: 083-933-5812
E-mail: aggakmu@yamaguchi-u.ac.jp
入試情報ホームページ
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/



農学部

食と環境の未来をつくる



山口大学農学部HP

農学部はこんな学部です！

農学は、農業や食品生産業が抱える課題を生物学・物理学・化学等の視点から解決し、人類社会の持続的な発展を目指す学問です。
農学はいくつもの顔を持っています。食料や健康、生命現象、環境等を脅かす問題を生物学・化学・物理学・地学・数学等を駆使して解決します。

学科の特徴

生物資源環境科学科

農業に関する諸問題の解決方法を合理的に導き出し、効率的かつ安全で持続可能な食糧生産の実現を目指して幅広い分野の教育・研究を行っています。



機械を使った実習



牛舎での実習

講義では、植物の生理や栽培方法についてはもちろん、農地の土壌や気象、病害虫、食料の流通といった幅広い分野も総合的に学びます。さらに、学生実験や農場実習では農業を実践的に学び、理解を深めます。



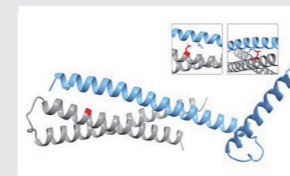
果樹園での実習



海外での調査



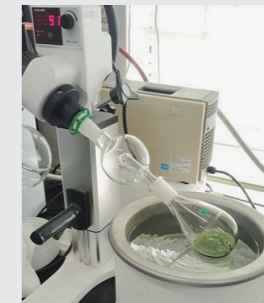
顕微鏡による形態観察



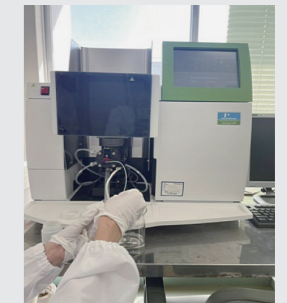
タンパク質の三次構造

生物機能科学科

植物や微生物、動物のタンパク質の機能や先端バイオテクノロジーについて学び、人間の健康や環境改善に役立てる教育と研究を行っています。

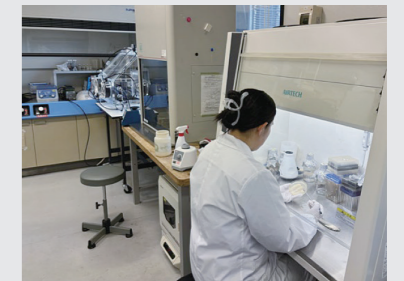


ロータリーエバポレーターでの減圧濃縮

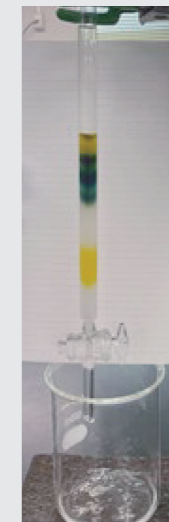


原子吸光分析

講義では、タンパク質の構造や機能、微生物・植物の生理機能など、生物・化学の専門的な内容を学びます。学生実験では、細胞や細菌への遺伝子導入、組換えタンパク質の精製やDNAの電気泳動など各分野の専門的な実験まで行います。



シャーレから菌を取り出す作業



シリカゲルクロマトグラフィーによる色素分離



菌を培地に伸展させている様子

研究テーマ一覧

生物資源環境科学科

- ・作物の多収性・高品質性についての生理生態学的解析
- ・乾燥地など耕作不良環境でストレスに強い作物栽培
- ・野菜・花きのゲノム育種および植物工場栽培に関する研究
- ・果樹の諸形質・遺伝に関する研究
- ・植物病原糸状菌の感染機構に関する研究
- ・イノシン・クマ等の生態学的研究と保護・管理への応用
- ・アジアにおけるシロアリの多様性維持に関する研究
- ・副産物石膏の農業的利用
- ・土壌有機物の微生物分解に対する安定化機構の解明
- ・降水雲および降雪雲内の雲物理学的直接観測研究
- ・画像による植物生体情報解析
- ・温室や植物工場における環境制御技術の開発
- ・植物病原微生物の診断・検出技術の開発
- ・黄砂発生メカニズムの解析・植生のリモートセンシング
- ・極度の劣化・損傷を受けた農業インフラの非破壊検査法
- ・日本の食料安全保障とグローバル・バリューチェーンの研究

生物機能科学科

- ・生物と食における香りの機能性に関する研究
- ・金属イオンの役割に着目した金属酵素反応機構の解析
- ・昆虫食の健康機能性評価とアンチエイジング食品成分の探索
- ・蛍光タンパク質を用いた細胞内代謝解析技術の開発
- ・植物代謝酵素の機能解析と有用物質生産への応用
- ・植物の香りの生成機構とその生理的役割の解明
- ・植物の光合成を調節するタンパク質の立体構造と機能の解析
- ・染色体倍化が植物の成長・生殖に及ぼす影響の解析
- ・サンゴに共生する微生物の機能解明
- ・微生物の持つ特異な機能の理解と利用
- ・微生物が行う酸化発酵の解析と利用
- ・微生物酵素の解析と有用素材生産への応用
- ・微生物の温度適応機構の解析と応用
- ・病原微生物の宿主への付着と定着
- ・ゲノムから見る微生物の環境適応と進化

学生の研究紹介

農学部

生物機能科学科
4年
小野 永真



微生物は、地球上の様々な環境に存在し、それぞれの環境温度に適応して生きています。私は、モデル微生物に、熱い環境や冷たい環境で生きる菌の遺伝子を導入することで、従来よりも幅広い温度範囲で生育できる微生物をつくり出せるかどうかを検証しています。もしこれが可能になれば、微生物を用いた物質生産プロセスで、温度制御にかかるコストを削減できるだけでなく、微生物の温度適応メカニズムの理解にもつながると考えています。



電気泳動を行う様子

微生物の培養装置

高校生へ一言

農学部では、微生物や植物、タンパク質など幅広い分野の学問を学ぶことができます。講義や実験の中で、自分が興味を持てる分野と出会い、自分なりに追求していけると楽しく充実した時間になると思います。

大学院 創成科学研究科

農学系専攻
博士前期課程1年
東根 麻衣



近年、健康志向の高まりや生活習慣病予防への関心から、食品の機能性成分が注目されています。ニンニクは健康に寄与する成分が多く含まれ、生活習慣の改善や免疫力向上への効果が期待される野菜です。私の研究では、地元産ニンニクの成分と健康機能性を解析し、その価値を明らかにすることで、地域農産物の活性化に役立てることを目指しています。



マウス細胞を使った免疫
や炎症への影響調査

インドネシア留学



高校生へ一言

農学部では、作物や食品、健康、環境など、いろいろな分野に触れることができます。留学や学会など、学びを広げるチャンスもたくさんあるので、気になったことには気軽に挑戦してみてください。好奇心を大切にすることで、より有意義な大学生活になると思います。

関連施設の紹介

農学部には、キャンパス内にある「附属農場」や制御された環境で植物の栽培技術を開発する「植物工場」があります。また、農学部と関連の深い施設として、地球温暖化に起因する課題について研究する「中高温微生物研究センター」があります。



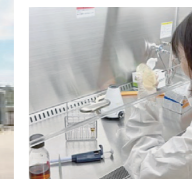
附属農場



植物工場



中高温微生物研究センター



学科教員からのメッセージ

生物資源環境科学科

教授
荒木 英樹



生物資源環境科学科のカリキュラムや研究は、作物や野菜などの生物生産、それらを取り巻く環境、農業の経済的な役割などが幅広く学べるようになっています。「いろいろなことに興味がある」「これから進路を考えたい」という人にはうってつけです。実習や演習、実験も学年が上がるにしたがってスキルアップできるようになっていて、4年生になる頃には、自信をもって進学や就職に立ち向かえるスキルが身についていることでしょう。大学生活に関する情報発信も心がけていますので、HPやSNS、オープンキャンパスにもご注目下さい。

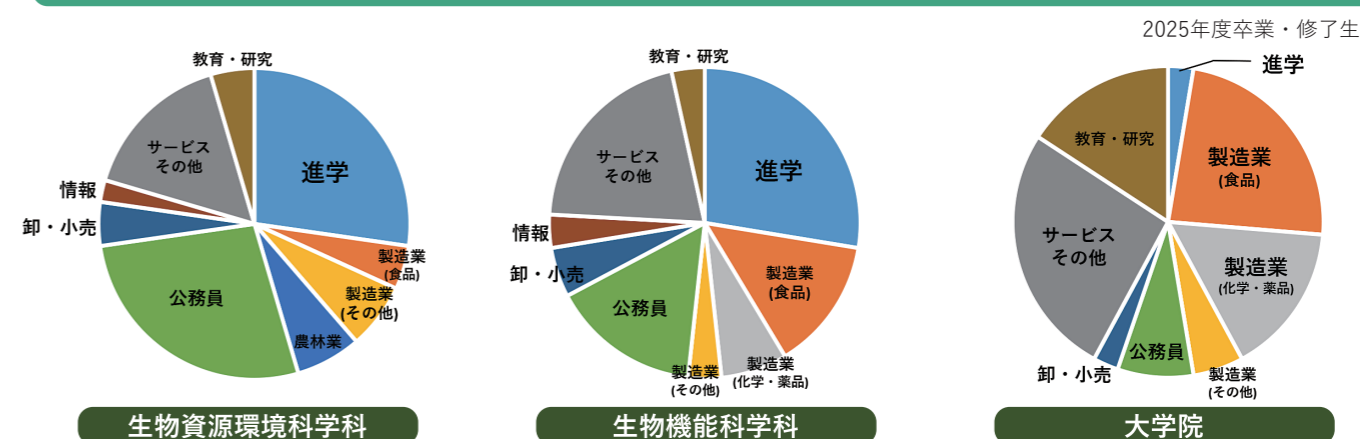
生物機能科学科

教授
木股 洋子



昨今、産業の多くの分野で、生物が持つ多様な機能を利用する研究開発が求められています。生物機能科学科では、そのような機能を遺伝子やタンパク質、代謝化合物、細胞の解析を通して明らかにし、食、健康、環境に関する課題解決に貢献できる人材の育成を目指しています。その目標達成のために、化学、生化学、微生物学、食品化学を4本の柱に情報科学を加えた講義と多彩な実験を盛り込んだカリキュラムに基づいて、生命のしくみの化学的な理解と高度なパイオ実験技術を習得できるように体系的な教育を行なっています。

卒業後はこんな未来が開けています



企業等例

製造(食品・農業)：エバラ食品工業株式会社、伊藤ハム株式会社、丸美屋食品工業株式会社、丸大食品株式会社、山崎製パン株式会社、株式会社三協デリカ、株式会社獺祭、株式会社ニッスイ **製造(化学・薬品)**：ニプロファーマ株式会社、持田製薬株式会社、参天製薬株式会社 **製造(その他)**：シャープ株式会社 **卸・小売**：株式会社ヨドバシカメラ、株式会社やすや **サービス・その他**：全国農業協同組合連合会(JA全農)、山口県農業協同組合(JA山口)、西日本鉄道株式会社(西鉄)、株式会社JALグランドサービス **公務員**：農林水産省、厚生労働省 福岡検疫所、国土交通省(気象庁、中国地方整備局)、財務省 門司税関、山口県、長崎県、山口市、広島市、北九州市